

令和5年度 信州母子保健推進センターだより No.4 R5.9.4

30度を超える残暑厳しい日が続いています。継続して熱中症への注意と同時に、新型コロナウイルス感染症等も増加しているため、乳幼児健診など多数のお子さんたちが集うような場での感染症対策をお願いします。今回は、最近の感染症状況、母子保健技術研修会Ⅰの報告等の内容となっております。

…… 最近の感染症の状況について……

最近の定点把握感染症届出状況です（長野県感染症情報から抜粋）（単位：人）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippe/kenko/kenko/kansensho/joho/index.html>

	8/14~8/20	8/7~8/13	7/31~8/6	7/24~7/30
新型コロナウイルス感染症	19.67	13.29	12.98	12.2
ヘルパンギーナ	1.87	4.68	7.57	9.81
RSウイルス感染症	1.41	2.53	2.91	3.33



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

〈長野県の状況〉

ヘルパンギーナとRSウイルス感染症は減少していますが、新型コロナウイルス感染症は9週続けて増加し、定点あたり19.67人でした。

新型コロナウイルス感染症に関しては、8月29日に5類に移行してからは初めて“医療警報”が出されました。

〈感染対策について〉

健診や教室など今年はコロナ前と同じような形に戻りつつあるかと思いますが、生活の中での感染予防の意識が薄れていると感じている今日この頃です。

あらためて、健診会場や教室開催時には、基本的な感染対策をお願いします。

- ①定期的な換気：換気扇を利用したり、窓を開けて換気しましょう。
- ②石けんでの手洗い、アルコールの手指消毒をしましょう。
- ③混雑した場所ではマスクの着用をしましょう。（2歳未満のお子さんへのマスク着用は推奨されていません。2歳以上の就学前のお子さんにも他者との距離にかかわらず、マスクの着用を一律には求めていません。）

今年の夏休みは数年ぶりに旅行にでかけるなどのニュースが聞かれました。

人の移動とともに新型コロナウイルス感染症も広がるのが懸念されます。

今後の感染状況に注目していきましょう。



（厚労省HPより）

…… 乳幼児身体発育曲線について……

この9月に県内27市町村で乳幼児身体発育調査が行われます。全国の調査を基に母子手帳等に掲載されている、乳幼児身体発育曲線が作成されています。皆さんは身体発育の評価として活用していますか？

身体発育曲線は様々な基礎疾患や虐待などを発見する糸口として大切な情報の一つです。保健指導の際には評価の指標として活用してみましょう。

身体発育曲線は、e-Stat身体発育曲線表22~32に掲載されています。

また、身体発育曲線以外にも以下のようなものがありますのでご活用ください。

- 横断的標準身長・体重曲線・SD表示（2000年度版）（日本小児内分泌学会）
http://www.ac-square.co.jp/member/jspe/index.asp?patten_cd=12&page_no=51
- 「低出生体重児の発育曲線（2022年）」「保健医療専門職向けの利用の手引き」
<https://sukoyaka21.cfa.go.jp/useful-tools/thema3/>

…… 当センターの研修会について……

現在、検討中の研修予定です。詳細については後日、お知らせします

研修会	開催日	内容
母子保健専門研修会Ⅱ	調整中	講師：こども病院「低出生体重児について」のテーマで検討中

… 令和5年度母子保健技術研修会 I を開催しました (7月26日) …

テーマ:「乳幼児健診の基本のきほん」

講義1:「総論・疾病スクリーニング」

講師:松本市保健所

塚田昌大 所長

講義2:「乳幼児編」

講師:信州母子保健推進センター

宮島有果 センター長

集合研修は市町村新規採用保健師、オンライン研修は新人研修に関わる保健師等を対象に開催しました。

○集合研修

【参加者数】38人(20市町村)

【理解度(5点満点)】講義:4.7点 実技:4.6点

○オンライン研修

【参加者数】63人(22市町村・9保健福祉事務所) 【理解度(5点満点)】講義4.6点

【参加理由】・乳幼児健診の基本を再確認する 22人(70.1%) ・今まで研修を受けていない 11人(35.5%)

○集合研修に参加した新人保健師のアンケートから

新人保健師の悩み

- ・乳幼児健診で自分の判断に自信がないため苦手、負担を感じている。
- ・その場で答えないといけないと思っていた。
- ・お母さんにどのように伝えたらいいのかわからない、不安を抱かせてしまうのではないかと考えてしまう。



研修を受けた感想

- ・乳幼児健診は白黒つけるところでなく、あくまでスクリーニングで、多職種の視点で判断して“次につなげる”ものとなり楽になった、安心した。
- ・自分だけで今決めるものではないことを意識していきたい。一時点での判断でなく経過を見ることも大事だ。
- ・白とグレーをスクリーニングするには、子どもの成長・発達について理解しないといけない。
- ・お母さんへの声掛けがとても大事だと思った。「様子を見ましょう」という言葉を簡単に使ってしまったが、「お母さんと一緒に経過を見させてください」といった次につながる声掛けが大事で誠実にその約束を実行して信頼してもらえる保健師になりたいと思った。



技術研修会のアンケートとグループワークで出された、悩みや疑問に思うことについて回答します。

また、R3年度No.9～R4年度No.2のセンター日より「乳幼児健診、この際だから聞きたい疑問」を掲載していますので参考にしてください。過去のセンター日より、下記に掲載しています。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/boshishika/sinsyuboshihoken.html>

Q1 お母さんの反応が薄かったり、困り感のないお母さんへのアプローチの方法に悩んでいます。

乳幼児健診には「標準的な発育・発達と親子の健康な生活習慣の目安」を伝える役目があります。

言葉だけで伝えることは難しいこともありますので、目安を示す教材資料などを一緒に見ながら、少し先の見通しなども伝えることで、お母さんも子どもの成長を自ら確認できる力を持つことができます。「この事について今はこうなんだけど、また〇日にお話し聞かせてくださいますか。訪問します」などと伝えてみましょう。

最後に「何か心配なことはありませんか?」の声掛けにお母さんとのコミュニケーションも取りやすく、次にもつながる言葉がけになります。知識や情報の習得も不可欠ですが何より保健師としての経験を積むことが最も重要です。

Q2 身体計測で基準より大きい場合の保健指導に困ります。

基準より大きいことも経過を見たり、生活の見直しが必要なことがあります。

生後3か月までのお子さんは、まだ満腹を感じる視床下部が育っていないので、与えた分だけ飲んでしまう特性があります。また、幼児期の肥満は将来の生活習慣病のリスクがあることや、二次性肥満の可能性など、保健師自身が理解し、お母さんへの適切な保健指導を行きましょう。



当センターへのご要望等ありましたら、母子保健推進員にお気軽にお声がけください。よろしくお願ひします。

担当圏域	母子保健推進員	連絡先
佐久・上小・飯伊・長野・北信	小山	長野県庁 保健・疾病対策課 026-235-7141(直通電話)
諏訪・上伊那・木曾・松本・大北	嶋田	